



だより



R8.6.16 Vol.11

「めがでたよ じいじがのこした くんしらん」

本校は俳句づくり活動にも力を入れています。これは5月の句の日通信に掲載されていた2年生の男の子の句です。まず下五の『くんしらん』『何?』と思いました。『めがでたよ』の上五を見て、「あ!蘭?君子蘭か!」と合点します。そして中七の『じいじがのこした』…。この子のおじいさんは長期入院でもされたんだらうか?もしかしたらお亡くなりになったのだから?いろいろなことが頭をめぐりました。私が祖父を亡くしたのは小1の時でした。句を見て祖父との数少ない思い出も甦りました。

読解力の育成が叫ばれ始めて久しい昨今。書いてある内容を正確に読み取る力も読解力ですが、その言葉から様々な思いを広げることも読解力です。そしてその読解力を支える力が語彙力です。季節を感じ季語を見つけ、十七音にぴったりの言葉を見つける。俳句づくりは読解力育成になくてはならない活動ですね。

見てください!

昼休み、校長室で休んでいると、3年生の女の子たちが、突然「校長先生!ダンス作ったので見て下さい!」とやってきました。キャアキャア、もじもじしていましたが、「じゃあ一緒にやるよ!」と一人が声をかけ4人のダンスが始まりました。曲はGReeeeNの「キセキ」最近の子供たちってダンスが上手ですよ。私が3年生の頃なんて、運動会で「チェッチェッ コリ」ってよくわからない歌に合わせて腰を振ってたくらいです。TikTok しながらポーズを決めて踊り終えた女の子たち。「上手やなあ。その曲なら校長先生、ウクレレで弾けるかも…。それでまた踊って!」と言うとまたキャアキャア言いながら教室へ。



「女の子の歓声って何で黄色なんだろ?」

四方山話松蔭 ver. 其の十一(什の掟)←おそらく「じゅうのおきて」かと…

もうだいぶ前的大河ドラマに「八重の桜」という作品がありました。あまり真剣に見ていなかったのですが、その中に出てきた会津藩校の教えです。そしてこれは『ならぬことはならぬものです』と締めくくられます。

- ・ 年長者の言うことに背いてはなりません
- ・ 年長者にはお辞儀をしなければなりません
- ・ 嘘を言うてはなりません
- ・ 卑怯な振舞いをしてはなりません
- ・ 弱いものをいじめてはなりません
- ・ 戸外で物を食べてはなりません
- ・ 戸外で婦人と言葉を交えてはなりません

低学年が下校するとき、なるべく一人一人と言葉を交わしたいと思い、校長室の前で「さようなら!明日も元気に来てね。」と声をかけるようにしています。みんな元気に挨拶を返してくるのですが、気恥ずかしいのか、素通りする子もいました。その子たちが玄関を出て整列している時、校長室に、

担任の先生の指導する声が聞こえてきました。「校長先生がさようならって言うてるのに、返事しないのはダメです。いけません。挨拶は大事にするものです。」もちろんその先生は優しく説いていましたが、『ダメなものはダメ!しないといけないことはしないといけない!』頭ごなしでいいとは思っています。頭ごなしといういささか聞こえは悪いかもしれませんが、「しっかり挨拶しなさい!」これに理由は要らないと思うんですよね。この感覚の歴史を紐解いていくと、おそらく武士道とか、もっとさかのぼると儒教とか仏教とか神道の影響を色濃く受けているんだと思うのですが(専門家ではないので思うだけです。間違っていたらごめんなさい)改めて什の掟を読んでみると、「ですよ!」と言いたくなるものがたくさん。「戸外で婦人と…」はさすがに隔世の感ですが…。

翌日から子供たちはというと…。私としては「さようなら」だけでいいんですが、「校長先生!さようなら!」としっかり口を開けてフルバージョンの挨拶を返してくれるようになりました。うれしいですね。

鉄は熱いうちにどんどん打ちましょ。芯のしっかりした立派な鉄ができると思います。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思ひます。